

〈巻頭言〉

『統合科学』の創刊にあたって

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科

研究科長 五福 明夫



世界的に猛威を振っている新型コロナウイルス感染症は、近年の人類社会の在り方を大きく変える契機となっている。国境の封鎖、在宅勤務、オンライン授業といったように、これまでの物理的な人同士の交流が、ネットワークを介したサイバー空間での交流に変化した。これにより、生活様式も大きく変化し、産業分野のシフトも起こりつつある。また、感染症の蔓延防止と経済活動の維持・発展との間のバランスをどう取るかの非常に難しい舵取りに各国の政府や地方自治体は苦慮している。一方でわが国では超高齢化社会における医療、介護、福祉に関する諸課題も山積しており、医療費や介護関連経費をあまり増加させることなく、高齢者に寄り添ったきめ細かなサービスの提供のための様々なイノベーションが求められている。

18世紀の科学革命以後、実験的方法が確立された諸科学分野は、20世紀以降急速に発達・深化し細分化し、かえって人類社会が抱える諸課題を解決することを難しくしているといわれるようになってきている。このため、諸科学の知見を組み合わせた新しい切り口、捉え方や組み合わせによって新たな価値を創造するイノベーションの重要性が認識され、そのための方法論の確立や実践知の体系化が求められている。これらの実現を目指して2018年に創設されたのが当研究科である。そして創設3年目に「統合科学」の研究成果を発表する場として本誌『統合科学』がここに創刊されることとなった。

産声をあげた「統合科学」が、複雑化する人類社会の課題を解決するためのイノベーションを起こして人類の持続的発展に貢献する学問へと発展していくとともに、本誌がそれを牽引する役目を果たすことを期待している。

令和3年3月10日